



「総合的マネジメント」帯広徳洲会病院がめざすもの

図1に帯広徳洲会病院が目指す総合的マネジメントの理想像をまとめてみました。

チームの形は、患者を総合的にマネジメントできることを必須の到達目標とします。総合的マネジメントには、医学的、全人的、そして経営戦略的に患者をみる能力が必要です。

全人的にみるとは、患者さんのADLや全体像を的確に判断し、どこに患者さんの幸せのゴールがあるのかがイメージできること。患者さんとその家族を、そのゴールに向かってナビゲートできること。介護や福祉の視点を厚くして、患者の生活環境の調整を奏でることができる。つまりは、患者さんとその家族の幸せに関して全責任を持ち、ともに歩んでいけることを指します。これは、言い換えれば「患者の日常をみる」ということです。疾患はあくまでも「非日常」に位置します。つまり、「非日常」ではなく、患者の「日常」の領域の中にこそ、医療チームの能力の高さが問われます。

医学的には、各診療科をまたいで、ある程度のレベルをカバーして診れるようになること。高齢者は各診療科の疾患をいくつも有することが多いです。ADLの低い高齢者が抱える疾患の一つ一つについて、これを専門医に紹介することは多大な労力を要し、それ自体が患者さんの負担にもなり適切ではないでしょう。さらに患者の環境調整を得意としない専門医への不適切な紹介は、患者さんの出口をふさぐことになり患者さんの不幸につながります。

患者さんとその家族の幸せを考えて、無駄な延命治療は行わない。医学的な正しさは時に患者さんとその家族を不幸に導くことがあります。患者さんと家族の心情に十分に配慮した看取りを演出できること。安易に専門医への紹介を行わず、可能な限り自分達のチームで完結させること。とはいえ、必要性を的確に判断してしかるべき時は専門医へ紹介します。その判断力が優れていること。つまり、医学を正しく使いこなすことが重要でしょう。

経営戦略的にみるとは、「自分の給料がどこから来ているのか」、この本質をしっかりと理解することに他なりません。そして、チームが常に活力にあふれ、生きがいを感じながら仕事に向かって進んでいくことができているか。患者のニーズに配慮し、そして患者の視点から常にサービスの向上を心掛けているか。時世の流れに敏感に、常に次なる戦略を思い描くことができるか。自分たちが計上する利益の総額は、自分たちがどれだけ社会の役に立ったかを代弁しているといえるでしょう。このことを理解することは、何よりも大事なことです。

その意味で、自分達のチームの事業収支をみることのできる能力は総合的マネジメントには欠かせません。

「患者の幸せ」は「医学的に正しい」を凌駕します。我々のチームは、この概念を深く理解し、これを文化として行動します。

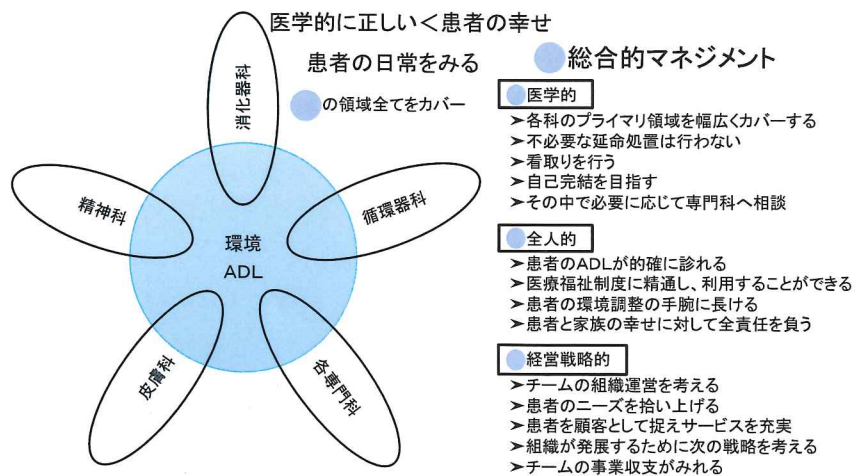


図1 我々のチームが目指すところ



監修 内科部長 西雄佐

帯広徳洲会病院

〒080-0302 河東郡音更町木野西通14丁目2-1
 TEL(0155)32-3030 FAX(0155)32-3522

急患は24時間体制